

待つて
ました！
グローブにも

レイヤリング 革命到来。

「あればいいのにな」と思っていた人、かなり多いのではないのでしょうか。そう、ファイントラックがついにやってくれました。ウエアの基本がレイヤリングなら、これからはグローブの基本だってレイヤリングなのです！

文●編集室 Text by PEAKS
写真●佐田伸弘 Photo by Koji Miyata



トリプルシールド™システム ってナンだ!?

かいた汗を肌に戻さない1stドライレイヤー®グローブ、その上で汗を吸収、外からの水は撥水する2ndミッドレイヤーグローブ、水の浸入を防ぐ防水透湿性素材の3rdアウターグローブ。3層レイヤリングで、過酷な冬山から手を守るシステム。すべての層がすぐれた透湿性を持つ

ミッドレイヤーグローブ外側の素材は、耐久撥水性と保温性を持つフラッドラッシュ®水中でも保温性を保つ素材で、雨も雪もシャットアウト

2nd ミッド レイヤー グローブ



**フラッドラッシュ®
パワーメッシュインナーグローブ**
¥3,150
サイズ：S、M、L / カラー：ブラック / 重さ：11g

いまやファイントラックのアイコンとなったフラッドラッシュ®パワーメッシュを使ったインナーグローブ。肌をドライに保ち、かつストレッチ性も抜群。繊細な作業が要求される手のポテンシャルを最大限に引き出す。耐久性にすぐれ、防臭性もあるという最強のドライレイヤー®だ

1st ドライ レイヤー® グローブ



フラッドラッシュ®パワーメッシュは極薄高強度メッシュ生地に耐久撥水性能を持たせた素材。かいた汗を肌から遠ざけ、濡れ戻りを許さない



3rd アウター グローブ

1. スノースカートはワンアクションですぐに解放、締め付けが可能。フィット感が高く、雪の浸入を防ぐ。2. 手のひら部分は耐摩擦ハイグリップ素材を使用。これはロープなどの使用時、強いストレスがかかることを想定しての仕様。さらにビッケルなどが握りやすいようグリップエンドも装備。3. 手の甲、および指の部分には外部からの衝撃を緩和するプロテクターが。4. 中指にあるループはカラビナを通すためのもの。着脱時にグローブを落とさないよう配慮されている

エバープレス® アイスグローブ

¥17,010
サイズ：S、M、L / カラー：ブラック / 重さ：231g
雪山登攀にも対応するハイグレードモデル。過酷な外界に接する3rdアウターグローブにエバープレス®という新しい防水透湿性素材を採用し、加水分解による劣化が極めて遅い。セットになっている2ndミッドレイヤーは吸汗拡散性と抗菌防臭性の高いフラッドラッシュ®サーモグローブ。単体使用ももちろん可能

目的に応じて選ぶ

「グローブレイヤリングシステム」



エバープレス®スノーグローブ
¥14,280
サイズ：S、M、L / カラー：ブラック / グレー
重さ：212g (ミッドレイヤー49gを含む)
雪山でオールラウンドに使用できるアウターグローブ & ミッドレイヤーグローブのセット。エバープレス®を採用。手のひらは水を含みにくく耐久性にすぐれた樹脂加工を施したハイグレードレザー



フラッドラッシュ®EXPグローブ
¥5,040
サイズ：S、M、L / カラー：ブラック / 重さ：65g
厳冬期に最適なミッドレイヤーグローブ。外は撥水性が高く、内は抗菌防臭性と吸汗性にすぐれ、中間層に保温性の高い素材をそれぞれ配置。手のひらと指先にはハイグリップ素材を使い、操作性を高めた



メリノスピン™サーモグローブ
¥3,570
サイズ：S、M、L / カラー：インクブラック
重さ：32g
保温、湿度調整、抗菌防臭を備えたウールと、耐久性、吸汗拡散性のすぐれたポリエステルを融合させた素材メリノスピン™サーモを採用。残雪期のミッドレイヤーグローブ、単体で通年使用と幅広く活躍

インナーとアウター、2層のレイヤリングが基本だったグローブに革命が起こった。ファイントラックが11層を加え、さらなる進化を求めたのだ。
ファイントラックといえばここ数年、冬山ウエアの世界に5レイヤリング (詳細は82〜83ページ) という概念を打ち出したメイド・イン・ジャパンのアウトドアブランド。かいた汗を肌に戻さないドライレイヤー®「フラッドラッシュ®」シリーズを発売する会社としても名高い。そのノウハウをつめ込んだのが、このトリプルシールド™システムおよび製品群だ。

さらには外から浸入してくる水分を弾く最後の砦としても機能する1層。耐久撥水性、保温性にすぐれる2層。そして、防水透湿性にすぐれる最外層の甲羅として雨や風、雪を弾く3層。すべての層が透湿性を持ち、3層の相乗効果で快適な活動を実現する。一度使ってみれば、そのドライ感にだれもが驚愕するだろう。
グローブは、冬山ギアの中で、もっとも酷使される道具のひとつだ。何万回と屈曲運動が繰り返され、内側では肌が大量の汗を生産する。過酷なのだ。冬山のウエアはレイヤリングが基本。これはグローブにも当然当てはまる。だからこそ、道具選びはこだわりたい。